

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490100205		
法人名	有限会社 すまいる		
事業所名	グループホーム あおば		
所在地	大分市大字金谷迫1493番地14		
自己評価作成日	平成29年12月13日	評価結果市町村受理日	平成30年2月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/44/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosvoCd=4490100205-00&PrefCd=44&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古国府番館 !F
訪問調査日	平成29年12月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

市外やショッピングセンターなどに出掛けやすい場所に位置し、自然豊かな環境にも恵まれている。ご家族やご友人にも頻繁に頂き、入居者と一緒によく遊びと過ごして頂ける家庭的なホームである。車椅子用特殊浴槽を設置しており、ADLの低下した入居者も安心してゆっくり入浴できる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市郊外の長閑さと利便性のマッチした環境に所在する2階建て2ユニットの施設で、理念を念頭に据えた運営・支援のあり方について、開所(2009年)より前進的に取り組み、薬品販売事業所との連携(訪問)による投薬管理・地域の介助支援ボランティア訪問・地域のベテラン主婦による調理専従員の雇用・加湿空気洗浄機のリースなどは、その特色の一端でも有り、日常の支援の実践において、一人ひとりの利用者の今の姿(思い)の把握・尊重に努める様子も伺えます。地域に開かれた施設づくり、地域密着型介護施設として、地域の方々との継続的な交流と地域のニーズの把握に努めており、幅広い地域の自治会との交流や、行政・公的機関との連携への取り組みにおいても、支援の向上に努める管理者の積極的な姿勢が伺えます。その人らしさに寄り添い、利用者本意の暮らしを支援する「入居したくなるホーム」を目指す施設運営の発展的な営みに、今後も更なる期待が持たれます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の名札の裏に理念を印刷しており、日々のケアの中で意識できるようにしている。 月1回のミーティングにおいて具体的なケア方針の統一を図っている。	「入居したくなるホーム・地域に根付くホーム」の理念をもとに、基本方針、運営方針が策定され、重要事項説明書やホームの入り口に掲示されています。職員も理念を携帯することで思い起こし、共有化を図っており、介護の実践に繋げています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、地域の方にボランティアに来て頂いたりもしている。 普段の散歩などでも地域の方と挨拶を交わしたり会話を楽しんでいる。	自治会に加入しており、地域双方との情報交換や連携ができています。地域の清掃活動や盆踊り大会、運動会、防災訓練に事業所として参加協力をし、地域の方のボランティア(利用者と会話)もあり、地域交流を図っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方からの介護のことや認知症についてなどの相談はいつでもお受けするようにしている。 また、地域ネットワーク等の集まりなどにも積極的に出席している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には、市役所職員、地域包括支援センター代表、自治会長、民生委員、地域住民代表、家族代表、職員代表が出席している。 取り組み状況の話し合いなどが行われ、出席者の意見を反映している。	運営推進会議は、行政担当者、地域代表、家族代表、事業所代表等のメンバーで構成され、2ヶ月に一度開催されています。事業所の近況報告、行事(敬老会等)の家族アンケート報告を議題に活発な意見交換を行い、助言や意見をサービスに活かしています。会議が地域との情報発信の場となっています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や研修会などでケアサービスの取り組み等について意見交換しながら協力関係を築いている。	地域包括主催「地域ネットワーク」の参加や市担当者との意見交換等行政との協力を得て、地域に根づく事業所作りができています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを実施している。 安全管理のためにセンサーを使用する場合も、本人の自由を制限しないよう考え、ご家族にも説明して同意して頂いた場合のみ使用している。	身体拘束の禁止・虐待防止について、職員は勉強会を通じ理解し、「言葉遣い」「態度」について事例をもとに検討をしています。何か見逃していることはないか、職員で話し合い再確認し、共通の理解と実践を図っています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングでは何度も議題に上げている。 虐待しないことは勿論だが、見過ごさないように注意を払うことの大切さも伝え、防止に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度を理解できるよう、情報に耳を傾け、活用が必要である場合には支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しての説明を入居者やご家族にする際は十分な説明を行い、疑問点や不安なことがある場合も丁寧にお答えし、納得して同意して頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者やご家族からの意見、要望などを職員間だけでなく、運営推進会議や研修などで意見交換し、運営に反映させている。	家族アンケートや面会時、代行申請等の機会に家族の意見、要望の把握に努めています。食事や寝具の持ち込み等家族会で検討し運営に反映しており、利用者に関しては、職員の意見を参考に会議で協議し、改善に繋げています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングで運営に関することについても意見交換し、反映できるよう努めている。	管理者は月1回の会議や、必要に応じて個別面談を行い、意見や要望を聞く機会を設けています。管理者は日頃から職員とコミュニケーションを図り、意見や提案を出しやすい環境作りに努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の希望休日や希望する時間帯での勤務を反映できるよう努めている。 勤続年数、勤務態度などに応じて毎年昇給を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修などには積極的に参加させている。 研修で学んだことを日々のケアやミーティングでバックアップし、スキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会や交流会などに積極的に参加して他の施設の取り組みなどについて意見交換し、サービスの向上に役立っている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心して生活を送って頂くために好きな事や苦手な事を本人やご家族からのお話やアセスメントシートなどを参考にして把握し、関係作りに役立てている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時などにご家族が困っていることや要望などに耳を傾け、解決に向けて一緒に取り組んでいく中で信頼して頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者やご家族が必要としている支援を見極め、その方に合った提案をするよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の家事など、入居者が出来る範囲で積極的に参加して頂いている。 一緒に行う中で教えられることも多く、お互いに支えあっていることを実感できる場面となっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族参加のイベントなどを通じてより良い家族関係の構築に努めている。 ケアで問題などが発生した場合、ホーム内だけで解決するのではなく、ご家族の意見も取り入れるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の思い出の場所などを聞き出してお連れしたり、馴染みの方々が集まる場所にお連れしてりして、馴染みの関係が維持できるよう支援に努めている。	利用者が築いてきた馴染みの人や場所を本人や家族から情報を頂き把握に努めており、馴染みの関係の継続を支援しています。 家族の協力で外出・外泊時に、日頃のケアの方法を伝え、職員の同行希望があれば対応しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、関わり合いが良くなるよう努めている。 ホールでの座る位置を変えたり、会話が楽しくなるように職員が間に入ったりすることもある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時には出来るだけ詳細な情報を提供し、相談などがあれば対応している。 関係が続いた結果、何ヶ月か後に再入居した事例もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりが、どう暮らしていきたいか把握するよう努めている。 ご家族からも情報を頂き、検討している。	担当職員は、日々の支援の中で把握した利用者の思いや意向を「ケース記録」に記載して全職員で共有するとともに、会話の中から利用者の希望を汲み上げ、その人らしく暮らせるように支援しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者やご家族からこれまでの暮らし方などをお聞きし、把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックや日々の様子観察により心身の状態を把握するよう努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成時にはご本人、ご家族、職員の意見や要望を聞き、反映させている。 短期目標に沿ってモニタリングし、見直している。	介護計画に関しては、3ヶ月毎のモニタリング・6ヶ月毎の見直しを行い、担当職員、家族、医療関係者からの意見を計画に反映しています。利用者の状況に応じて、計画の見直しや修正を適切に行うとともに、計画書はそれぞれのユニットに置き、職員間の共有に繋がっています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の日々の様子などはミーティングや介護記録などにより職員間で共有しており、ケアプラン作成時は参考にしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	突発的な怪我や体調不良時には病院に付き添って行くようにしている。 要望にお答えして、各種申請手続き等も出来る範囲で代行している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議や研修会、地域ネットワークなどで地域資源を把握し、安全で豊かな暮らしができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医による定期的な往診がある。往診時に相談したり、必要な場合は検査指示して頂いたりしている。訪問歯科や訪問看護も利用している。	利用者・家族の意向により選択され、かかりつけ医への受診(家族同伴または職員送迎)と、協力医療機関(往診・受診)による支援が行われています。家族とは、相互の情報提供により状態の把握がなされ、職員間での共有も図られています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護士が職場内の看護師、訪問看護師等と相談や情報交換を行いながら協力して入居者を支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係性を構築している。	入居者が入院した場合にはご家族や病院関係者と情報交換をしている。入院中の経過等も情報交換し、退院時の受け入れ準備もしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のケアについては早めに本人、ご家族の意向を確認するなど、話し合いをしている。実際にその時期になったときには体調の変化の度に話し合い、相談に乗るようにしている。	安心して過ごせる生活支援(緊急時の対応・看取り)において、家族の思いの把握(利用者の身体の変化に伴う)に努め、相互の話し合いが行われ、状況により医師との関係性を高め支援に繋げています。医療機関(在宅ケア医・訪問看護ステーション)との連携による援助に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを作成してミーティングで話し合ったり、緊急時に駆けつけて頂ける訪問看護師などと日頃から情報交換をしたりして急変や事故発生時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練を行うとともに、地域との協力体制を築いている。倉庫に食料を備蓄したり、寝具類も余分に用意するなどしている。	火災避難(年2回)訓練(夜間想定含む)の実施と、研修(2階から1階への避難の実践・初期対応の見直し・マニュアルの確認)や、ネットを利用した連絡体制への取り組み、推進会議の活用と地域との連携による安全対策の強化に努めています。	自然災害時、地域の緊急避難場所として協同の対策に取り組むなど、前進的な連携への組織づくりに努めています。災害時における相互連携(安心安全)の体制の更なる強化に、一層の期待が持たれます。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、声かけやトイレ誘導、オムツ交換など、誇りやプライバシーを損ねないよう支援している。	ミーティング(毎月)では、現場の支援に即応した振り返り研修が行われています。声かけの方法(言葉づかい・声音等)による精神への配慮をポイントに、職員の気づきの大切さへの支持、プライバシーにおける職員共有の理解を深めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりが希望したことなどを実行できるよう努め、すぐに実行できないこともミーティングで計画するなどしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の業務中心でなく、入居者一人ひとりの生活リズムを尊重するよう心掛けて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えのときに一緒に選んだり、散髪のと きも一人ひとりの希望する髪型をお聞きし、 お願いしたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みなども反映したメニュー作りを心掛けている。 ホームで調理しているので調理のお手伝い もして頂いたりもしている。	献立(職員)と調理専従者(料理上手な地域の方々)による手作りの味わい(五感)の楽しみ、栄養バランスや嗜好、形状も考慮された食事が提供されています。職員やボランティアの方との豊かな雰囲気(対話)、行事食など、気配りが感じられます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスや水分量に気を配っている。 一人ひとりの健康状態にも十分注意して支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア、訪問歯科による専門的な口腔ケアやアドバイスなど、口腔内が清潔に保てるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレ誘導やオムツ交換などしている。 なるべくトイレで排泄できるよう自立に向けた取り組みをしている。	排泄パターン等を全職員で共有する仕組みにおいて、トイレでの排泄(自立)支援に努めています。思いの尊重と、職員間の気づきを活かした支援体制を大切に、チームでの援助(プライバシー保護を含む)に取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が原因で発熱や不穏行動など、日常生活に影響が出ることは理解している。 水分補給を促したり、散歩や体操等により便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の楽しさを忘れてしまわないためにも入浴日には様々な方法で誘導し、皆さん入浴して頂けるよう努めている。 特殊浴槽の設備があるのでADLが低下した入居者も入浴を楽しんで頂ける。	週2回を基本に、身心状態の把握、気分や希望を踏まえた支援への配慮(声かけ・職員連携)に努める姿が伺えます。安全への留意、安心・心地よい雰囲気や会話を大切に、くつろげる入浴介助・見守り、足湯の援助も行われています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムに合わせて日中の活動を促し、夜間ゆっくり眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用している薬について理解できるよう薬品ファイルを作成したり、訪問薬剤師の説明を受けたりしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理や食器の片付け、掃除や洗濯の手伝いなど、できることは一緒に行っている。 何か役割を持つことによつていきいきした表情が見られる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日常的に散歩や外気浴などを行っている。 職員とドライブや買い物に出掛けたり、ご家族と外食に出掛けたりもしている。	利用者の思いに寄り添える支援・楽しみ感の援助を視野に、外出支援(企画イベントやショッピング・嗜好品の買い物などの個人外出)と、日常的な気分転換(散歩・外気浴・ティータイム・野菜づくり)に取り組んでいます。家族との外出の機会も、持たれています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に多額の金銭は持ち込まないよう、ご家族にお願いしているが、買い物をするときなどはホームから金銭をお渡しし、自由に買い物できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に電話したり、友人などに手紙を出したりできるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地良く過ごして頂けるように照明や空調などに気を配っている。 季節に応じて模様替えしたり、入居者の作品や写真を飾るなど工夫している。	個性の尊重を視野に支援に繋げており、個人目標(生活リハ等)の掲示、家具の配置や座席への配慮(安全・安心感)が行われています。職員のアイディアの活用による、楽しみ事の援助とくつろげる雰囲気づくり(家庭的)への取り組みの姿勢が伺えます。1・2階の交流も図られています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりがホールで思い思いに過ごして頂けるようにテーブルやソファなどの配置をたびたび話し合っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具を置いたり、写真、作品などを飾ったりするなど居心地良く過ごして頂けるよう工夫している。	利用者の暮らしやすさへの着目(ベッドの位置は本人の使いやすさと介護への順応を考慮)、和める生活環境づくりを支援しています。居心地良く過ごせる環境づくりを大切に、家族との交流・協力を保ちながら、援助に繋がっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーで要所に手すりも設置しており、一人ひとりが安全に生活や歩行練習などができる環境をつくっている。		